

第 3 6 2 回放送番組審議会

1 日 時 2016年2月16日(火)14時～15時30分

2 場 所 tvk 大会議室

3 委員総数 8名 出席者6名 欠席2名 布施勉副委員長、二宮務委員

出席委員; 山田一廣委員長、白石俊雄委員、林義亮委員、伊藤有壱委員、五大路子委員、
吉川知恵子委員
tvk; 中村社長、櫻井編成局長、山崎コンテンツ局長、三枝プロデューサー、玉村
編成部長

4 議 題 (1)放送番組

資料:①2月のタイムテーブル

②2月～3月の特番一覧表

(2)視聴合評

横浜市広報番組「ハマナビ」

毎週土曜日午後6時～午後6時30分

(3)その他 報告事項

・視聴者対応

報告期間:2016年1月18日(月)～2016年2月14日(日)

・第361回(1月)放送番組審議会の議事報告

(VTR;「ありがとッ!」2016年2月2日放送VTR)

5 議事内容 2ページ以降に記載

6 審議期間の答申または改善意見に対してとった措置及びその年月日

7 審議機関の答申または意見の概要を公表した内容・方法及び年月日

(1) 2016年3月8日(火)「ありがとッ!」(12:00～14:00)の

「放送番組審議会からのお知らせ」コーナーで審議内容を司会者が報告

(2) 審議概要を当社インターネットホームページに掲載

玉村編成部長 それでは定刻になりましたので、第362回テレビ神奈川放送番組審議会を開催させていただきます。それでは山田委員長お願いいたします。

山田委員長 それでは始めさせていただきます。暦の上では春でして、その証のように春一番は吹いたんですが、この4、5 日寒かったり暑かったりしている不安定な気候ですが。今日のこの光は、今日は風が冷たいんですが、何か春の兆しを感じさせるような、そんな日に思えます。それでは、第362回の番組審議委員会を始めさせていただきます。中村社長の方からお願いいたします。

中村社長 お忙しいところをありがとうございます。今、山田先生もおっしゃったように、もう2 月ということでプロ野球の方もみんなそれぞれキャンプに入っております。われらがベイスターズも沖縄、宜野湾でキャンプをやっております、私共もスポーツ部のディレクターも沖縄対応をしております、そちらにもインターネットで映像を送ってきているというようなことで。そのベイスターズ、地元開幕が3 月29 日からのジャイアンツ戦の3 連戦ということですが。今年何十年ぶりという感じですが、ジャイアンツ戦の中継を1 試合だけやられることになりまして、3 月29 日巨人戦の中継をやります。4 月以降、ジャイアンツ戦はちょっとできないんですが、中継に入っていくということです。3 月の特番では今日ご紹介しないかもしれませんが、そんなことで、いよいよ球春近しということになっております。本日もいろいろご審議のほどよろしくお願いします。それでごめんなさい、3 月1 日付で人事を行います、こちらの櫻井が私どものコミュニケーションズの子会社へ出向をとりあえずはして、その後は株主総会でそちらの役員になります。そういうことで3 月1 日付なものですので、今日が最後の番組審議委員会となります。また終わりの時にご挨拶申し上げます。ありがとうございました。

山田委員長 ありがとうございました。それでは本日の議題に沿って進めて参りたいと思

櫻井編成局長

います。まず2月のタイムテーブル、それから2月3月の特番一覧表を参照していただきながら、放送番組の内容について事務局からお願いいたします。

はい、では最後の説明をさせていただきます。よろしくお願いいたします。2月のタイムテーブルがお手元にあるかと思います。真っ赤なロードスター。マツダの車であります。山崎がずっと番組を担当しております「クルマでいこう！」の番組、毎年のように「クルマでいこう！」になってから、「ENGINE FOR THE LIFE AWARD」ということで、視聴者から大好きな、乗りたい車ということで、毎年一台選ぶということで、かつては「新車情報大賞」ということで、番組から独自の年間優秀車を選ぶということで、なんと3年連続でマツダの車が選ばれたということで。非常に視聴者の方から人気の高いメーカーということになっております。3年ですので、あそこには近藤も工夫して、去年がたしかディーラー、目黒のディーラーさんの店頭で、その前は日比谷のマツダの東京本社でと。今年は、お好み焼きが食べたかったのかもしれませんが、マツダの本社まで行って、工場の皆さんまで撮った、非常に工夫の凝らしたタイムテーブルの写真になっております。余談になりますが、私も小飼社長さんに3年前の表彰のときにお目にかかったときに、弟さんがたまたま長野県の諏訪にお住まいで、諏訪のレイクシティ・ビジョン、LCVというケーブル局がありまして、かなり大規模な局です。そこに「新車情報」時代からこの番組をネットしていらっしゃる、社長の弟様は非常に熱心な番組のファンでして、ビデオを撮って小飼社長に広島まで送っていただいているということで。

「こんないい番組を、なんで広島でやらないんだ」という風におっしゃって。私も広報担当の取締役から伺った話でございますが。その後、実は当時は営業でしたけれど、編成に移ってからも、この番組を広島でなんとかと、一つずつ。ちょっとすみません、最後なので長くしゃべらせていただきました。

そんな曰くのある番組というか、縁でございまして、そのところの思いもあって、めくっていただいても「クルマでいこう！」の宣伝になっておりまして、非常に気合のこもったタイムテーブルになっております。その下が1月スタートの新番組「白鳥麗子でございます！」です。非常に視聴率もアクションも、Yahoo!の再生回数も非常にいい数字を取っておりまして、かなり話題になっております。映画のヒットなどもありましたら、私どもの成績にも貢献してくるという期待の作品です。2月のタイムテーブルは、2月でございまして新しい動きはございませんので、割愛をさせていただき、次をめくっていただきますと、そこがございますのが、「大磯の左義長」ということで「日本の祭り」の今年の第一弾。それから本日、ここ5階に移した理由は2階で神奈川県公立高校の解答速報をやっております、会議室に先生たちがいっぱい来て、今速報で問題を解いたりされております。そういったことで今日は5階に移っていただきました。といったところでタイムテーブルのご案内をさせていただきました。特別番組については玉村からご紹介させていただきます。ありがとうございます。

玉村編成部長

続きまして「tvk2016年2月特別番組一覧」、裏が3月です。今お話しがございましたように、本日7時から神奈川県の公立高校入試解答速報がございします。それから2月19日はスペシャルドラマ「猫侍」のスピノフ、2時間でございします。それから横浜市会の座談会が20日の土曜日にございします。裏に行っていただきまして、3月3日、4日が県議会の中継。飛びまして3月23,24,25日、これが予算委員会の中継でございします。3月13日が昨年からはまりました横浜マラソンの生中継。前日にスペシャルとしましてあおりの番組を55分やります。3月13日と20日の「ワールドビジョン」と書いてございしますのが、毎月放送しております「世界の子どもの日常生活」といったものの仮

タイトルでございます。また3月15日から16日は例年放送しておりますママさんバレーの決勝大会。3月5日、6日に秋葉台文化体育館、藤沢で行われるものの収録です。3月26日、31日は横浜市会のダイジェストです。簡単ですが、以上でございます。

山田委員長 はい、ありがとうございます。

中村社長 29日のジャイアンツ戦は特番じゃなくて、レギュラーのベ이스ターズナイターの枠の中に入っちゃって、ここには書いてございません。

櫻井編成局長 開幕スペシャルみたいにドーンと打って出したいと思っておりますが、会社のジャンル分けではレギュラー番組になっておりまして、ここには載っておりません。

山田委員長 ありがとうございます。2月、3月の番組について事務局から説明がございましたが、これについて何かご意見ご質問等がございましたら。

林委員 いいですか。

山田委員長 はい、どうぞ。

林委員 このマラソンのスペシャルって、仮ということでしょうけど、どなたかゲストをお迎えになっておやりになる、そういうことですか。

櫻井編成局長 いえ。12日ですね。これは今「ありがとッ！」のレギュラーで出ている山川恵里佳さんやウッズ一郎さんが、練習しているコーナーをやっている、そのダイジェストをやります。ここへはゲストは出ません。ゲストランナーとして走る人の、前日までの足跡みたいなものをダイジェストにして、「翌日、頑張れ」という番宣を兼ねて。

林委員 わかりました。

山田委員長 3月13日の「少年・手塚治虫の宝塚」というのがありますね。「～漫画の神様、故郷に帰る～」もうだいぶ前、20年ぐらい前になりますけれども、宝塚

の手塚治虫記念館というところに足を運んだことがあるんですが、これはサンテレビが作成した番組のリマスターということなんですが、どういう番組なんですか。

玉村編成部長 サンテレビさんがこれを、今おっしゃったような話で、博物館の素材などをいろいろ使って作っているものを発掘したようなんです。それをリマスターして全国の放送局さんに「放送しませんか」とお話が来ているところで、わが社もお話をいただいたので。これはお金のやり取りとしては購入する形で。

山田委員長 わかりました。ありがとうございます。他に何かございませんか。

五大委員 2月21日の「毎日映画コンクールの表彰式」というのは、どんなものを。

山崎コンテンツ局長 まさに今日が表彰式当日でして、夕方から、いやごめんなさい 3時半から。今準備しているところです。例年は表彰式の模様を収録して編集して、そこにうちのアナウンサーだったり、私どもの番組で仕込んだタレントさんが受賞された方にインタビューするというスタイルでやっていたんですが、いろいろありまして、今回運営する制作会社、式典自体を運営する制作会社が変わったりしたので、今回はシンプルに表彰式の模様を収録して、一部編集して放送するという。

五大委員 ニュースみたいに。

山崎コンテンツ局長 ニュースというか、本当に表彰式そのものを伝えるという形で。もちろん表彰式の中で、受賞者が感謝の気持ちの言葉とかいろいろおっしゃられますので、それを余すところなく伝えようと。

五大委員 はい、ありがとうございます。

山田委員長 3月27日のドキュメンタリー番組「娘の命の価値」。これもサンテレビですね。これはどういった内容のものなんですか。これも先ほどの手塚治虫のもののように購入したという形ですか？

玉村編成部長 これは若干背景が違っておりまして、サンテレビジョンと私共、それから関東
関西の6つの独立局で「ネット6」という、ゆるやかな枠組みを作っておりまし
て、その中で共同番組制作などをいろいろやっている中の一つで、ドキュメ
ンタリー番組の相互交換放送をやっているものです。今回はサンテレビさん
が作ったものを私どもはじめ、各局で流します。夏に私どもが制作しました、
横浜の地ビールの試みをやっていらっしゃる方をドキュメンタリーした番組を
作ったのですが、それを逆に他の局で放送していただいてということで。それ
に関しては敢えて支払もしない、そういう形でやっております。

山田委員長 サブタイトルが「司法に翻弄された遺族」ということで、かなり非常にセンセー
ショナルというか、考えさせられるようなものですね。他にございませんか。よ
ろしゅうございますか。ないようでしたら、2 番目の視聴合評、横浜市の広報
番組「ハマナビ」の方に移りたいと思います。

中村社長 ちょっと申し訳ございません。ここで今日は失礼させていただきます。

視 聴 合 評

山田委員長 はい、ありがとうございました。それでは委員の皆様からいろいろ意見を頂戴
する前に、番組の制作を担当されました三枝さんの方から、制作の背景など、
お話しいただければと思います。

三枝プロデューサー はい、今ご覧いただきました「ハマナビ」を担当しております三枝と申します。
本日はよろしく願いいたします。今回ご覧いただきました「ハマナビ」は 1
月 30 日放送分ということで、実はこれテーマ的には横浜市市民局の皆様方
と私共番組スタッフ、構成作家を交えてテーマを決めているんですが、この
テーマに関しては毎年横浜市さんが主催を行っている「PHOTO
YOKOHAMA」という写真のイベント、毎年 1 月から 3 月にかけて市内で様々
な写真や映像に関するイベントに興味を持ってもらおうと行っている、その告

知ということで、毎回テーマとしてあげさせていただいております。去年は逆にもう少し具体的な「PHOTO YOKOHAMA」というイベントを紹介するにあたって、やや放送をずらしまして、どういう内容のイベントをやっているかということ放送しました。今回は逆に事前に告知をさせていただいて、ちょうど 1 月 30 日をご覧いただいたとおり「あぶない刑事」が公開初日だったということで、文化観光局の方も非常に力を入れていましたので、それをきっかけにして、「PHOTO YOKOHAMA」のイベントに興味を持っていただくこと、プラス後半の写真の部分に関しては、これも今月の 2 月 25 日から開催される「CP +」というカメラと写真、映像の祭典があるんですが、これもここ何年か横浜がメイン会場として開催されていますので、その集客を図るためにカメラ写真に興味を持ってもらうということで、テーマをさせていただいたような流れがございます。

山田委員長

はい、ありがとうございます。いろいろ委員から質問などが出るかと思えますけれども、それは最後の方にまとめてお話していただければと思います。よろしくお願いいたします。それでは五大さんからお願いいたします。

五大委員

はい。今、面白く拝見させていただいたんですが、横浜の「あぶない刑事」がやっている街々は個性的なところですよ。今私も個人的に行っただけなので、都橋のあそこで写真を撮ってきたばかりだったので、とても興味深く見られたんですけど。写真の説明のところが、普通のお家の、普通の家の中での撮り方で非常にわかりやすかったんですが、あそこまで引っ張っていったら、たとえばあの都橋商店街の中で「こう撮ったらいいんじゃないか」とか、そういうことをやってもらった方が、見ている側も、写真の撮り方としてよりわかりやすかったのではないかとということと、せっかく「画になる街」なので、その街を利用してモデルの被写体を、今写っていた数々の個性的な風景などこ

ろにスポットを当てて、そのまま説明してもらった方がわかりやすかったかなとは思いました。

山田委員長 ありがとうございます。続きまして林さんお願いします。

林委員 フィルムコミッション事業を前半にやって、後半を坂本さんでしたっけ、プロカメラマンでしたね。

三枝プロデューサー はい、プロです。

林委員 その方との話で番組を作ったということでしたけど、コミッション事業に特化し
てもできたのかな、という気がしました。「あぶ刑事」の封切に合わせてという
ことで、「あぶ刑事」中心でしたけれども、横浜はいろいろな映画のロケ地にな
っていますので、「あぶ刑事」に限らず、フィルムコミッション事業というのは、
都市間競争での今もっとも先鋭的なところでもありますから、横浜ならではの
政策は当然あるわけで、「あぶ刑事」に限らずいろいろな映画を、著作権の
問題とかいろいろあるかもしれませんが、紹介してもらって。コミッション事業
そのものについて、横浜市がどういう立ち位置を取っていて、どういう組み
みをしているかということをもっと後半にやっていただければ、30 分番組だ
ったら構成できるのかなという気がしました。今、三枝さんから番組のコンセ
プトをお聞きして、後半部分を入れた理由もご説明いただいて、わからなくな
かったんですが、であれば、あそこは戸塚のあそこを、料理の写真を撮るとい
うのは、どこで横浜の魅力と重なってくるのかと、首をかしげたところがあり
ましたし、撮影ポイントをあげるのであれば、戸塚であれば再開発が終わり
た戸塚駅東西の町の変貌もありますでしょうし、横浜を広く「画になる街」とい
うことであれば、開発が急な展開を見せている羽沢であるとか、返還が間もな
くやってくる瀬谷のアメリカ軍基地ですね、基地と言うにはいろいろな見方が
できるでしょうけれども。海軍道路の周辺であるとか、いろいろな撮影ポイント

があったのではないか。坂本さんの地元だからというナレーションもありましたけど、ちょっと安易かなという気がしなくもなかったです。撮り方は、今私が申し上げたようなところであれば、別に観光スポットとしていろいろ出ている、外国人墓地や山手じゃなくても結構ですので、今横浜で変貌しつつあるところを敢えて撮影スポットにした方が、戸塚の建屋や料理の写真よりも、はるかに訴求力があったような気がしました。以上です。

山田委員長

よろしいですか。では次、伊藤さんお願いいたします。

伊藤委員

拝見していて、「PHOTO YOKOHAMA」と「CP+」がベースになっていることがよくわかりました。その上で「あぶ刑事」というのは、トピックスとして毎週作られている番組なので、とてもいいなと思ったんです。フィルムコミッションで提供しているということを、逆にお互いのメリットにするために、こういうときにタレントさんから、「横浜のここが良かった」という一言があると、お互いギブアンドテイクで、プロモーションがより盛り上がったと、そんなような欲が出た感じがしました。脚本家さんの話も面白かったですけれども、フォトとか撮影とか映画というポイントで言うと、監督か撮影監督、もしくは俳優さんのコメントがほしかったなという、腑の落ちどころというのを少し感じたんですが、全体は面白く感じました。後半は多分横浜というだけで下岡蓮杖から始まって、写真で何日間もしゃべれるぐらいいろいろなものが出てきますので、少し「あぶない横浜」みたいなものを切り口にする回だとしたらば、戸塚というものを持ってくる、コントラストの背景とか納得のしどころが、あと一つ難しいので。やはり都橋近辺でも、おしゃれなカフェやおいしいレストランだったりがあったと思います。スマホでの撮影指導は、実は見ている方が一番活用できる場所だと思います。あれはあれで参考になりましたが、人物を撮るためのアドバイスが一つもなかったのが、友達を撮るとかファミリーの写真を撮るとか。そうい

うところでは、あと一歩ほしかったなという気持ちが、いくつか見受けられた感じでした。でも、楽しく拝見しました。

山田委員長

はい、ありがとうございました。では続きまして白石さん、おねがいます。

白石委員

「さらば」の封切を見て、なかなか面白かったなと思いました。テレビの二時間ドラマなんかでは、非常にきれいな夜景はしょっちゅう見っていますが、なかなかスナックみたいなところがありましたが、私も行ったことはないんだけど、ああいうところでロケや撮影をしているんだなとびっくりしたところで、一度行ってみたいなと思いました。横浜ロケは随所にあるんだろうと思います。さすが横浜は、国際横浜と言われる限りだと思いますけど、建物とか歴史とか事欠かないロケ地があるんだろうだと思います。今回はそういうところを使つての「さらば」ということで、興味があったと思っております。それから冒頭の問題につきましては、上矢部なので私のすぐ近くで、なおさら興味がありまして、写真とは別に、そういうところにプロのカメラマンがいらっしゃるんだなということや、料理の撮影を教えてもらったりしましたが、料理もなかなかおいしいものを出しているなということで、ここも、上矢部は駅からは歩いてはいけませんが、一度行ってみたいなと思いました。横浜の事業も多岐に渡ってやっているわけですので、横浜市もなかなかやるなという感じがしたところです。都橋のところですが、あそこは人っ子一人いないんですが。あそこはなかなか難しいんじゃないかなと思いました。昔の都橋とは違って、私なども朝なんか行くとなかなか入りにくいんですね、お店に。いろいろな人がいますので、なかなか入りにくいです。ああいう形で都橋を紹介するとしたら、形を変えた方がいいんじゃないかと思いますね。「ああ、行ってみたいな」という都橋と、現実とは違いますので。女性の引っ張りもありますので、適材適所とは言えないのではないかなと思います。もしアングルを選ぶのであれば、場所を変えた

方が。「ああ、行ってみたいな」と思うところを選んだ方がいいと思いました。
そんなところですよ。

山田委員長

ありがとうございます。続きまして吉川さん、お願いします。

吉川委員

ひとつひとつ提供された情報は、大変興味深くて印象的でした。ただ、番組の構成が悪すぎたなという印象です。というのは今、ご説明を聞いて「PHOTO YOKOHAMA」の告知のためと、「CP+」ということ、写真と2つのテーマがあるということを説明されて、「なるほど」と、初めてモヤモヤ感が氷解したんですけれども。最初にナビゲーターの方、「画になる街横浜、映像、写真で見ます」みたいなことをご紹介になって、エンディングでも「画になる街横浜を、違う目線でとらえ」という風に結ばれているんですが、テーマが「画になる街 横浜」、本当にそうだったのかというと、先ほど何委員の方からのご指摘があるように、写真のことを伝えたかったのか、料理の写真だったり人だったり、「画になる街横浜」とは全然離れた写真の話がかなりのボリュームで出てきてしまって、テーマがずれている感じです。やはり、流れがあつて気持ちよく見られるとストンと入ってくるんですが、非常に流れが悪かったなと。個別的には、たとえば「画になる街」といって「あぶない刑事」の話をしている中で、突然ぐるなびと横浜市が提携した話とか、「台北の市長が訪問しました」というワンポイントニュースが出て来たと思うんですが、でも何でそこに差し込まれるのかわからないですし、後で「がんフェスティバル」の話とか、こういう横浜市として告知したいものがあるのであれば、それはちゃんと区切ってスポットニュースとして話した方が、テーマがずれないと思いますし、せっかく「あぶない刑事」の話から気持ちよく流れていったフィルムコミッション事業や、フィルムツーリズム事業という話で、一つの流れでいい流れになっていったなと思ったら、都橋商店街から一気に写真に飛んでしまって。今度「PHOTO

YOKOHAMA」のイベント告知がかなりメインの目的であるとすれば、そこがやや強引で、何でイベント紹介が出て来たのか、視聴者にかえて伝わりにくいんじゃないかなと。写真撮影のコツという話でも、人物の写真の話題にいちちゃって、風景をいかに切り出すかという視点ではとらえられていなくて、ロケ地も、先ほどから出ている戸塚に行って、「あぶない刑事」とどう結びついているのか、またさらにわからなくなって。盛んにテロップで、ファミリー・ビレッジの何時から何時までの紹介というのが、「これ、スポンサーかな」と思うぐらい、左下にしつこく出ていたんですが、そういうのもちょっと違和感がありましたし。今度、坂本さんのインタビューになると、おしゃれな街という要素はまるでなくて、写真の魅力の話に移ってしまっていて、テーマのつながりが非常に見えにくかったというのがありました。2つの柱を立てるのであれば、もうさりげなくなっていくことは考えないで、「PHOTO YOKOHAMA」の告知をバーンとやって、そこから逆に持ってきて今度は、ある意味「PHOTO YOKOHAMA」と「CP+」を正面から持ってきて、その写真というつながり、映像のつながりの中で、逆に言えばフィルムコミッションだとかそういうところが出て来た方が、まだ見やすかったかもしれない。さっき私も、個人的には林委員がおっしゃっていたように、フィルムコミッション事業だけでもすごくいいテーマだと思ったので。それをもっともっと深く掘り下げて。たとえば今、タクシーなどにもポケットに、フィルムのマップが置いてあったりしていますよね。それが実際に浸透しているところとか、それを訪ねて歩いている人を発掘してみるとか。そんなことをやったら、いくらでも30分は持つし、面白い番組になったんじゃないかなと思って、ちょっと残念です。

山田委員長

ありがとうございました。私も他の皆さんが言った意見と同じようでした、ただ番組そのものは、横浜のそういうところを何点も取り扱っていましたので、大

変興味深く拝見させていただきました。それと、ナビゲーター役の女性アナウンサーも非常に好感が持てて、良い番組だったと思います。ただ番組の構成に難があると同時に、もったいないなという感じがしました。これも多くの委員の方がお話していますけれども。たとえばあの中で、私は3つの番組が作れたと思います。「あぶない刑事」は刑事だけで、30分十分に持つと思います。以前、横浜市は外部の事業主と言いますか、事業所にフィルムコミッション事業は委託させていたんですよね。横浜コンベンション・ビューローですか、そこがいわゆる横浜市の本体の方に移ったということは、それだけフィルムコミッションの重要性、そういう観光地化を兼ねた、観光地を宣伝するという、そういう事業を展開したということで、これは大変いいことだと思います。たとえば「寅さん」シリーズは、日本全国から誘致合戦が出ていますし、今では長野県上田市がそういうことに力を入れていますので、横浜もそういうフィルムコミッションに力を入れていることは、大変いいことだと思うんです。あの30分の番組の中で3本できるというのは、たとえば「あぶない刑事」は刑事だけで今のフィルムコミッションのことを踏まえて1本の番組が十分できたと思います。それから2本目は、横浜市の中央図書館で彩色絵葉書の展示をやっていることだけで、これだけでいろいろ当時の彩色絵葉書がたくさん残っていますので、それと現在ここはどこにあるのか、ということで照らし合わせた定点観測のような番組も、十分できたと思います。それと最後の坂本写真館ですか、写真の撮り方。あれは個人的にも、ものすごく興味を持って見させていただきまして、あれはスマホで撮るやり方なんですけど、基本的にはスマホでもデジカメでも、アングルの取り方とか、何を中心に撮るかということでは非常に勉強になったと思います。その写真のことだけでも1本の番組が十分にできたなということで。これは横浜市の広報番組ということで、いろいろ制約があった

かと思います。そうすれば、構成の難もクリアできて、きちんとした番組が 1 本ずつ丁寧にできたような気がいたします。なかなか制約があるので難しいと思いますが、番組そのものは面白かったのも、是非「ハマナビ」、力を入れてやっていていただきたいなと思います。他に言い忘れたこと、言い足りないことがございましたら。

林委員 あ、いいですか。

山田委員長 はい、どうぞ。

林委員 これは今回の番組だけにとどまらないで、ちょっと外れるかもしれないけれど、以前「ハマナビ」の放送形態というのは、スタジオから進行役がいらして、今回のような女性を出して、掛け合いというか、それでやっていらっしやいましたよね、何年か前まで。

三枝プロデューサー 「ハマナビ」の前身に「ずばり！横濱」というタイトルで。

林委員 そうそう、そうですね。

三枝プロデューサー まずスタジオベースで男性と女性の司会者がいて、リポーターがその都度出て、VTR でご紹介するというやり方をしておりました。

林委員 私はその当時よく拝見してまして、いいなと思っていたんですが、ガラッと変わってしまったのはどういう背景があったのかと、これを機にお聞きしたいなど。これは今回の番組そのものの批評ではないんですが、教えていただければ有難いなど。前の方が良かったのではないかと。申し訳ないけど。いろいろあると思うけど、それは批評とは別で教えていただければなど。

三枝プロデューサー 実は、「ずばり！横濱」はスタジオベースで 3 年間ぐらい、スタジオを基本にして、各特集をその都度のリポーターがロケーションして、スタジオで VTR を流しながらやるということで。行政広報番組は、基本的にはスタジオ番組がベースで多いです。やはり、急遽いろいろな情報を入れるとき、事前のロケ形

態の番組は、なかなか突発的な事業やご紹介を、なかなか組み込みにくいので、スタジオを設けることで、いろいろな新しい情報を視聴者に伝えるということで、そういう形が多いんですが。今回、横浜市の番組がオール VTR にしようという背景は、市民局さんの方から、番組をリニューアルしてみたいということで、「じゃあ、どういうことができるのだろうか」と。スタジオの司会を考えるのか、それとも全体的な構成やコンセプトを考えるのか、いろいろ意見を協議したんですが。一番視聴者に VTR の部分を、スタジオだとどうしても凝縮してしまうので、もう少し幅を広げて、VTR の部分で視聴者の方に行っていたきたいこと、情報として届けたいことを 30 分の中で網羅できないかということで、VTR30 分という形に、結果なりました。

林委員 すみません、申し訳ない。

山田委員長 他にございませんか。

白石委員 よろしいですか。

山田委員長 どうぞ。

白石委員 景品に横浜の手ぬぐいが出ましたね、広げてね。やはり横浜はああいういいものを作っているということは、非常にいいことだと思うんですね。絹のネックチーフ、これも今でも高くていいものだなと思うんですが。手ぬぐいもいいなと思いました。やはり海外のお土産だけでなく、横浜あるいは神奈川を離れたところに持っていくお土産として、風呂敷の使い方や手ぬぐいの使い方を添えて。これは横浜市にいう話ですけど、もっと PR した方がいいのかなと思いました。

三枝プロデューサー ありがとうございます。白石先生がおっしゃっていただいた、ちょうど後半の番組プレゼントで「横濱001」というブランドのグッズが認定されていて、それをご紹介しつつ、視聴者へのプレゼントということで、この回には手ぬぐ

いをやらせていただきました。ですから毎回食の、お菓子の部分であったり、また「001」には、物ではなくて氷川丸やマリントワーという施設も、やはり横浜の大きな財産ということで紹介したりするので、毎週いろいろなプレゼントをご紹介しますと、横浜にはこういうお土産、定番のものがあるというご紹介も含めて、コーナー的にやらせていただいております。2年に1度、いろいろな審査で品物が変わりますので、そのタイミングでは特集として横浜の特産、こういうものがあるということを核において、いろいろな横浜のお土産という部分も、特集で何回かやらせていただきました。

山田委員長

他にありませんか。はい、どうぞ。

伊藤委員

私が横浜市の広報局の審査員をしておりまして、毎年2回、市の広報物を。その中で非常に大きなリクエストとして、市民全般から寄せられまして。たとえば、外国人として生活する方々、ボランティアの方々だったり、母親という立場だったり、あるいは商業的な方々、いろいろな方からなんですが、そういったところのリクエストの一番の集約の部分が、字幕のフォーマットというのが。そういうリクエストの結果として、ああいう形ができているということを認識しておりまして。非常に字幕が多いんですが、見る方々からすると、あれがいいところを、そういう側から見ていましたので。それに対して実際見る方々や、作る方がどういうストレスとか納得があるのかと、逆に聞いてみたいなという気がしていました。「いくらなんでも多すぎだよ」とか。ろうあの方の方々からすると、「手話を入れてほしい」とか、「字幕が、まだこれだと情報量が足りない」とか、本当にやはり。非常にそこを苦勞されて、厳選されたものとしてあれを見ているので、逆に裏を知った上で、作り手としての声をちょっと聞いてみたいなという気がしたのと。あと、改めて思ったんですね。毎週作られていくもので、石井さんがやられた役の方は、何人か交代していくんですか。

三枝プロデューサー 今 3 名ですね。男性の根岸アナウンサーと石井さんと高島という女性 3 名のローテーションで、特集を組まさせていただきます。

伊藤委員 さっきのスタジオの話、スタジオと中継という番組の話が出たんですが、番組を進めていくパーソナリティの魅力とか推進力って、すごく番組を支配するので、たとえば最後に「次回の予告は」というところで、別の方が一般市民の方と「泉区の 30 年」とやるんですけど、その切り替わり方みたいな部分が、それぞれきちんと、石井さんの場合は一般市民のような立場で、わざわざ現れた脚本家にも「えー？あなたが脚本家なんですか？」という、すごく市民目線というところで特色はあるんですが、あるときはしっかり番組自体の推進役として責任持ったしゃべりだったり、そういう部分を促している、指揮者のような、そういうところの強さが、あるところでは、いるのかなとちょっと感じた次第です。すみません、2 個言っちゃったので、1 つ目の質問をどこかで答えていただければと。思います。

三枝プロデューサー ありがとうございます。横浜市の番組でコメントフォローをしていただくのは、私が担当する以前からの手法なんですけど、当初はおっしゃるとおりに手話を入れるか入れないかの選択が 1 つあったと思います。手話を入れるとどうしてもワイプで入れるその部分、映像が欠落してしまうので、それを防ぐためにも横浜市さんの方では、字幕という選択をされたと思います。制作の立場から申し上げますと、この番組の担当をしたときは、驚くほどの枚数の字幕をまず作らないといけないという作業があります。当然、1 回編集したものを全部コメントを起こしまして、そこから実は抜粋していきます。コメントを言った通りだと、当然わかりにくかったりくどかったりする部分があるので、割と括約したコメントフォローになっていくので、見方によると、ちょっと違和感を感じる視聴者の方もしらっしゃると思います。言葉をなぞるだけでは長くなるので、説明みた

いなテロップ、お話していることに関する概要として、1枚ぐらいのテロップで納めるべきところは、なるべくそういうテロップを長めにして、敢えてコメントフォローしないような形で、今は各制作担当者が字幕の方は工夫してやっております。コメントの部分は大体150枚から200枚ぐらいです、毎週。そして説明のテロップが50枚から70枚ぐらいという量を、30分の中で紹介しているわけなんです。手話もそうですが、テロップにしても画面に占める割合が出てきますので、制作する側としては、とてもおいしい料理のカットでも、何かテロップが入っていたり、もっと強調したい人物の顔であっても、テロップがかかってしまったりということで、画角にはロケ中、苦勞をする点が多いです。

伊藤委員

ありがとうございます。

山田委員長

他に何かございませんか。それではいくつか質問が出ましたので、答えられるところから、ちょっと三枝さんの方からお願いします。反論もあるかと思います。

三枝プロデューサー 五大先生からの「現場でレクチャー」ですよ。その方が僕も実は面白いと思って。当然、番組が毎回終わるごとにスタッフで反省会をやるんですが、毎年扱っているテーマだからこそ、これも先生方の質問と一緒になんですが、「じゃあ、昨年これをやったからこそ、次はちょっと変えよう」ということで、本当に「画になる街」なので、街の景色をいっぱい入れた方が面白いんですが、それは前回やったので、今回は切り口を変えて、逆に今ブログとかが多いので、写真を料理とかにするという部分があったので。それはこちら側のものなんですが、タイトルが「画になる街」なので、そこはやはり強調した方がいいのかなと思っております。これも総括してフィルムコミッション事業に特化して、当然いろいろな事業をやっているのでもいいと思うんですが、やはり市の方はどうしてもいろいろな情報を盛り込みたいということで、いくつか盛り込むと、

吉川先生がおっしゃったように、焦点が合わなくなってくる。もう一つ絞ったところで、逆に合うものが、いくつか入れることによって合わなくなってくるので、これに関しては横浜市さんとも、いくつかあるテーマに対して、取材対象をいくつか設けるのではなくて、「一つの縛りで行くのもどうですか」という提案も、こちらからもしております。山田先生がおっしゃった図書館の彩色の、実は僕もすごく興味があって、あれだけで行けたと思うんですが、お知らせ程度になってしまったので、今後構成をしっかりすることと、あまり欲張りすぎず、伝えたいことを絞ってやっていくのが、逆に視聴者には伝わるんじゃないかということで、スタッフも共有して横浜市さんに提案していければなと思っております。都橋からまた写真のことですが、ディレクター曰く、ちょうど都橋が「あぶ刑事」のロケ地だったので、その流れのつなぎの、扉絵代わりにあそこから写真へ行ったと。これも強引さがあるので、いろいろ今後は、構成作家も入っておりますので、そういった部分、先生方からの意見を参考にして、もう少し核のある伝わりやすい構成、まとめ方をこれからいろいろ話し合っていければと思っております。

山田委員長 ありがとうございます。

山崎コンテンツ局長 ちょっと補足を。

山田委員長 はい。

山崎コンテンツ局長 ちょっと補足をさせていただきますと、2014 年度のこの番組の始まるときに、始まったのは 2013 年ですが、2014 年に「この番組を強化してほしい」という話がありまして、いわゆる上辺の横浜情報ではなくて、もっと深掘りをしたものがほしいとか、いろいろなリクエストがあって、番組のリニューアルが 2014 年の 4 月から行いまして、今現在、構成作家さんも含めてディレクターたちと企画会議をもってやっております。そういう風に横浜市の方からおっしゃられる

のもあるんですが、実際企画会議をやって、1 ヶ月に 4 本、番組のテーマがあるとすると、お互いテーマを出し合って、大体 12 案ぐらいあるんですね。そこから 3 分の 1 に絞ろうということをするときに、「じゃあ、このテーマとこのテーマをうまくミックスして、こことここをうまくチョイスしたらどうか」とか、どうしても横浜市さんの方でバランスを取りたがるという側面もありまして。そうすると先ほど皆様からご意見が出ているように、構成が絞りがきれないということになるので。この番組は毎年今年度の総括をして、来年どうしようというお話し合いを、実は非常にタイムリーなんですけど、来週月曜日に横浜市さんとやりますので、そのときに、是非皆さんからこういうご意見があったということをご参考にさせていただいて、来年度の番組作りに反映したいと思いますので。逆に今日、タイミングよくいろいろご指摘をいただいて、感謝申し上げます。ありがとうございます。

山田委員長

テーマ、説明等、意見について話していただきましたが、どなたか他にお伺いしたこと等ありましたら。よろしいですか。ないようでしたら、3 番目その他報告事項に移りたいと思います。

玉村編成部長

はい。視聴者対応について。今回は 1/18 から 2/14 までの E メール、電話の代表的なものを抜粋しました。3 番目のものは「クルマでいこう!」。先ほどの櫻井の方からも話がありましたが、中山さんという方のことを伺っております。裏がお問合せのメールのグラフです。傾向は前回、前々回とほぼ変わっておりません。簡単ですが、以上でございます。

山田委員長

ありがとうございました。事務局より視聴者対応についてのご説明がございましたが、これについて何かご意見ご質問等ございますか。よろしいですか。ないようでしたら、前回の議事報告、よろしくお願いします。

議 事 報 告

山田委員長 本日の議題はすべて終了いたしました。何か言い足りないこと、言い忘れたことがございましたら。事務局の方から何か通達事項等がありましたら。

玉村編成部長 各先生方からご案内がございますでしょうか。五大先生、何かございますか。

五大委員 ご案内があるんですけど。

玉村編成部長 どうぞ。

五大委員 横浜ローザが今年 20 周年になりまして、皆さんと一緒に「横浜夢座のつくり方」フォーラムをやります。お時間のある方は是非いらしてください。以上です。

玉村編成部長 ありがとうございます。2 月 21 日、次の日曜日ですね。

五大委員 ありがとうございます。

伊藤委員 よろしいですか

玉村編成部長 はい、どうぞ。

伊藤委員 前回ハガキを配らせていただいた、東京芸大大学院の修了制作展。3 月上旬からございましたが、例年テレビ神奈川さんのお天気予報の時間で、その映像を告知的な意味合いで流させていただいておりまして、今年もご了承いただきまして、今速報を伺えたんですが、明日から天気予報の時間に、芸大のアニメーションの映像が流れますので、もしこれを見てご興味を持たれましたら、展覧会の方にも来ていただけましたらと思います。ご協力ありがとうございます。

玉村編成部長 5 分の天気予報の中のマークが出るバックの映像です。よる 9 時前です。

近藤 明日だけではなく、ずっとやっています。ほぼ毎日です。土日だったら朝から晩まで。

櫻井編成部長 じゃあ、お天気が気になったら 3 に合わせていただいて。是非ご覧いただきたい。

山田委員長

はい、ありがとうございました。他にございませんか。では事務局の方から来月の件。

玉村編成部長

次回は3月8日火曜日になります。3月だけは第2週ですので、お間違えないようにお願いいたします。時間は2時から、場所は元に戻りまして2階です。視聴合評につきましては、実は終わった番組ですが、「ダイドードリンコス ペシカル 日本の祭り」というシリーズものです。今回は1月に開催された「大磯の左義長」というものを私どもが制作をさせていただきましたので、これをご覧いただいて、ご批評いただきたいと思います。すでに終わっておりますので、ご覧になっている方もいらっしゃるかと思いますが、DVDをご用意いたしましたので、お持ち帰りいただきまして、次回ご批評をお願いいたします。以上です。

山田委員長

それでは、他にないようでしたら、本日はこれにて閉会とさせていただきます。ありがとうございました。では、これにて閉会といたします。